

平成31年3月29日

岩見沢市議会

議長 井 幡 修 一 様

会 派 名 市 民 ク ラ ブ

代表者名 大 坂 龍 起

## 政 務 活 動 報 告 書

政務活動の用途項目	調査研究費
日 程	平成31年2月19日（火）～21日（木）
視察先・視察項目 (研修先・研修項目)	北海道「炭鉄港」に関する明治日本の産業革命遺産について ■19日：佐賀市 三重津海軍所跡 概要及び表現技術について ■20日：鹿児島市 尚古集成館及び関連施設を通し 薩摩と北海道の関わりについて ■21日：大牟田市 三池炭鉱 ボランティアガイドについて
議 員 名	平野義文
調 査 概 要	詳細は別紙のとおり

## 全体行程

- 2月19日(火) 岩見沢市出発～佐賀空港～三重津海軍所跡(佐野常民記念館)視察～新幹線久留米駅～鹿児島市～宿泊
- 2月20日(水) 鹿児島市 視察 ～ 宿泊
- 2月21日(木) 鹿児島市発～大牟田市～三池炭鉱視察～福岡空港～帰宅

## 2月19日(火) 佐賀市

- 視察項目：世界文化遺産構成遺産「三重津海軍所跡」の表現について

- 視察受入対応者：

佐賀市佐野常民記念館 館長 諸田謙次郎 様

佐賀市企画調整部三重津世界遺産課 副課長兼活用係長 野田宣心 様

佐賀市企画調整部三重津世界遺産課 活用係主任 伊藤友紀 様

### 1.佐賀市の概要

- ・総人口：233,222人 (平成31年2月末日現在)
- ・世帯数：110,209世帯 ( )
- ・面積：4314km<sup>2</sup>

佐賀市は、平成17年10月1日に佐賀市、諸富町、大和町、富士町および三瀬村が合併して誕生しました。

さらに平成19年10月1日には、川副町、東与賀町および久保田町と合併し、人口237,506人(平成22年国勢調査)、面積431.84平方キロメートルの市となりました。

新しい佐賀市は、脊振山系の山ろく部の山林や清流、古代肥前の国の行政府跡「肥前国庁」、中心部の長崎街道に代表される歴史遺産や佐賀城公園、日本の近代化を先導した「幕末維新期の佐賀」の魅力を紹介している佐賀城本丸歴史館、筑後川にかかる昇開橋や佐賀平野に広がるクリークや田園風景、豊饒の海といわれる「有明海」など素晴らしい環境に恵まれています。特に観光面においては、山間部にある観光りんご園、温泉、スキー場、また沿岸部における干潟の個性的な動植物など、多様な魅力を備えるまちとなりました。

また、平成27年5月には、渡り鳥のシギ・チドリ類飛来数日本一を誇り、紅葉する塩生生物「シチメンソウ」が自生する「東よか干潟」が、ラムサール条約湿地に登録され、平成27年7月には、日本初の実用蒸気船「凌風丸」が造られた「三重津海軍所跡」が、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」のひとつとして、世界文化遺産に登録されました。

(佐賀市webサイトより)

## 2. 調査項目について

### 世界文化遺産構成資産 三重津海軍所跡の概要及び表現技術について

#### ① 施設概要

- ・ 名称：史跡三重津海軍所跡
- ・ 指定年月日：平成 25 年 3 月 27 日（平成 26 年 10 月 6 日追加指定）
- ・ 所在地：佐賀市諸富町、川副町
- ・ 面積:31,885.14 m<sup>2</sup>（うち追加指定 2,350.75 m<sup>2</sup>）
- ・ 国史への選定理由：三重津海軍所跡は、幕末に佐賀藩が洋式船による海軍教育を行うと共に、艦船の拠点地として、また修船・造船の機能を有した施設であり、船渠や製罐所を始めとする遺構・遺物が良好に存在していることが確認された。幕末期における西洋の船舶技術の導入や展開を知る上で重要である。

#### ②調査、質問要点

- 現在、地中に埋蔵されていて、実際に見ることのできないものをどう表現できるか  
この三重津海軍所跡は、現在は土の中に埋まっています、その姿を直接目にはすることはできず、実際に目にできるのはなんの変哲もない河原といっても過言ではない。その中で見せる工夫として、隣接する佐野常民記念館に三重津インフォメーションセンターを解説し、「みえつタイムクルーズ」を整備している。



#### 1) みえつスコープ

- ・ 平成 26 年度整備（翌 4 月 1 日運用開始）、平成 28 年 4 月字幕追加、平成 29 年 3 月、平成 30 年 11 月改定）
- ・ スマートフォンを使った双眼鏡型案内機器。位置情報を感知し、音声ガイダンスと共に当時の三重津海軍所の様子をイメージした 360 度の VR 画像を見ながら現地散策が可能。
- ・ 110 台設置（県 70 台、市 40 台～所期投資に 6000 万円）
- ・ コンテンツは現在 2 代目。コンテンツ改修に 1～2,000 万円程度かかる

#### 2) みえつドームシアター

- ・ 直径 6m のドーム型シアター。三重津海軍所創設に至るストーリーを 5 分程度の映像で理解することができる。
- ・ 平成 28 年度に整備し、約 2,000 万円
- ・ 30 席あり、団体対応が可能

#### 3) web アプリ



みえつスコープ使用状況

- ・個人の端末（スマホ・タブレット等）でダウンロードして使用するアプリ。三重津海軍所の過去と現在を見比べることができる。

#### ■世界文化遺産登録前と登録後の変化について

- ・佐野常民記念館への来場者数推移が大きく変化している。  
平成 27 年、世界文化遺産認定に向けたイコモスの審査通過後の 5 月には前年同月比 328.4%となる、19,086 人が来館。世界文化遺産認定の 7 月には前年同月比 738.3%となる 20,149 名が来館するなど、世界遺産効果は大きい。
- ・現在の年間来場者数は認定前の 38,038 人に比べ、認定直後の平成 27 年が 181,280 人、H28 が 124,730 人、H29、97,852 人、H30 2 月末現在で 100,258 名と落ち着きを取り戻しつつあるが、認定前に比べると 3 倍近い来館者推移となっている。

#### ■市民の関心について

- ・史跡保全、価値伝承に関し、様々な取り組みを実施し意識醸成が進んでいる。
- ・課題としては登録年をピークに来館者も減少傾向
- ・特に若い年齢層の関心が薄い

#### ■ガイド養成の状況

- ・佐野常民記念館（市社会教育課所管）で募集。
- ・登録人数は歴史ガイドスタッフ 21 名、記念館内のサービススタッフ 13 名、体験学習スタッフ 5 名、生花スタッフ 2 名の計 41 名（平成 30 年 12 月現在）
- ・テキストを作製、研修会を実施しているが、ガイドによって内容のばらつきがあるのは否めない。またガイドの高齢化も進み、人材不足である。

#### ■学校教育における連携

- ・三重津海軍所跡に関する子ども向け教材の制作
- ・ふるさと学習事業への学習支援（学校教育課）
- ・佐賀市中学校社会科資料の作製。統計データ、地図の他、地域の文化財等について掲載し市内の中学校 2 年生に配布

### 3 視察の感想

視察を行ったテーマとして、現在は目に見えない埋蔵された世界遺産を、どう現地で表現しているのかを確認したかった。それは現在日本遺産認定の申請を行っている「炭鉄港」において、明治期より岩見沢駅の北側にて展開されていた一大鉄道工場の風景や、炭鉱最盛期の風景などを同じ手法で表現することができるかどうかの確認であった。まさしく現在の技術を使うことで非常に臨場感ある見学をすることが出来、来場する方々に共感していただけるツールとなることを確信した。しかし世界文化遺産とはいえ、認定時の盛り上がりは一時であり、その後の継続に課題が残っていることも理解した。もちろん、認定前と現在を比較すると大きな差

があり、世界文化遺産の効果は十二分にあるが、市内に点在する他の歴史文化施設等との関連、言い換えれば、周辺地域の構成資産との連携をより明確にストーリー化することが、周辺全体での底上げにつながるものと確信した。

## 2月20日(水) 鹿児島市

- 視察項目：世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」を通し、薩摩藩と北海道との強い関連についての調査
- 視察受入対応者：  
株式会社島津興業 尚古集成館 館長 松尾千歳 様

### 1.鹿児島市の概要

- ・ 総人口：596,950 人 （平成 31 年 2 月末日現在）
- ・ 世帯数：275,195 世帯 （ // ）
- ・ 面積：547 km<sup>2</sup>

江戸時代の鹿児島市は、禄高 77 万 8 千石・天下第二の雄藩で薩摩・大隅（鹿児島県）・日向（宮崎県南部）の三国を治めた島津氏の城下町として発展してきました。

「丸に十の字」の紋に羽振りをきかした島津氏の統治下、鹿児島市が藩政の中心となり、南九州の雄都の地位を占めるに至ったのは、第 6 代島津氏久公が東福寺城（現鹿児島市清水町）を居城にしたとき（1340 年頃）に始まると言われていています。以来 500 年にわたる島津氏の統治下のもと、鹿児島市は南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげました。

鹿児島は、大陸や南洋諸島に近いという立地条件から、必然的に琉球を中継地として早くから貿易も活発に行われ、また、大陸文化やヨーロッパ文化の門戸ともなりました。

16 世紀の中頃、フランシスコ・ザビエルが上陸し、わが国に最初にキリスト教を伝えたことなどは、その代表的な例ともいえます。さらに、近世に入ってから、19 世紀の中頃新しいヨーロッパの機械文明を取り入れた研究が進み、第 28 代島津斉彬公のもと磯（いそ）地区一帯では反射炉や溶鉱炉が造られ、わが国における近代工業化の発祥の地となりました。

近代日本の黎明、明治維新においては、薩摩藩の元勳西郷隆盛・大久保利通などを筆頭にその原動力となり大いに活躍したのをはじめ、黒田清隆・松方正義・山本権兵衛が歴代総理大臣を務め、軍人では西郷従道・大山巖等、教育界では森有礼（初代文部大臣）、実業界では五代友厚が、また文化の面でも黒田清輝・藤島武二（洋画家）、有島武郎（小説家）等、幾多の人物を輩出しました。その間、明治 4 年に廃藩置県とともに県庁の所在地となり、同 22 年 4 月には市制が施行されました。

鹿児島市は、第二次世界大戦の戦火で市街地の約9割を焼失しましたが、市民のたくましい建設意欲のなかで思い切った都市計画が策定され、将来の躍進に備える礎が築かれ、戦後は観光・商工業の発展とともに市域も拡大し、昭和42年4月29日には隣接する谷山市と合併して人口38万人の新鹿児島市が誕生、同55年7月には人口50万人を突破しました。

その後、平成元年には市制施行100周年を迎え、平成8年4月1日には中核市に指定されました。また、平成16年11月1日には吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、政治・経済・社会・文化等高次な都市機能が集積した南九州の中核都市として発展を続けています。（鹿児島市webサイトより）

## 2. 調査項目について

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」と北海道の「炭鉄港」との繋がりについて

### ①調査概要

株式会社島津興業 尚古集成館 松尾千歳館長様に9時間にわたりマンツーマンのレクチャーをいただき、座学、構成世界文化遺産の視察を行いました。

### ②調査項目

#### 【座学】

#### ・明治維新前後に薩摩藩が与えた影響について

中世より海運の拠点として栄えた鹿児島において、世界が身近であったこと。また、鎖国政策期において存在した貿易窓口4つのうちのひとつが鹿児島で、琉球王国支配による琉球経由の貿易が盛んに行われていたことから、西洋の情報を把握していた背景がある。そこでアヘン戦争で清が敗れ、西洋諸国によるアジア侵略が決定的になったこともあり、その高い危機感から幕府より早く、西洋のものを日本独自の技術で再現し、近代化を推進してきた背景がある。その流れにおいて薩摩藩が明治維新をリードする立場となった。



集成館松尾館長による座学

#### ・世界文化遺産 明治日本の産業革命遺産の背景について

世界文化遺産 明治日本の産業革命遺産が認定された背景としては、ただ古いものが現存していることが重要ではなく、西洋によるアジア侵略の中で、日本だけが僅かの期間に列強と肩を並べることができたそのストーリーにこそある。

#### ・炭鉄港との関わり

島津斉彬の提唱により、北方警備による北海道開拓が薩摩藩内に浸透していた。また、北前船の恩恵を受けていたこともあり、明治維新後に北海道開拓の中枢に携わった多くは旧薩摩藩士を中心とする薩摩の人々であった。また北海道炭鉄鉄道会社を設立したのも薩摩閥であり、直接的に北海道の近代化を推し進めることとなった。

### 【現地視察】

- 旧集成館（反射炉跡）を始め、旧集成館機械工場、鹿児島市内には関吉の疎水溝、寺山炭窯跡、旧鹿児島紡績所技師館が世界文化遺産構成資産として認定されています。
- 中には薩摩藩と北海道の繋がりをイメージできる、北海道炭鉄鉄道会社の社章と良く似たマークを見つけることもでき、改めて炭鉄港との関連を感じることができました。



鹿児島市内にある歴史文化財を象徴するマーク



岩見沢レールセンターにある北炭の社章

- 世界文化遺産登録前後の観光客の推移に関しては、仙巖園に関しては元来観光客の多いところであり、世界文化遺産認定より、大河ドラマである西郷どんの影響で来場者が増加しているとのこと。
- 世界文化遺産とはいえ、仙巖園内にある機械工場と反射炉跡は多くの観光客が訪れているが、かなり距離が離れることとなる関吉の疎水溝や寺山炭窯跡などは、かなり訪れる人は少ない状況。これは見た目の派手さはなく、あくまで近代化に結びつく背景を知らなければその価値を感じる事が難しいためと思われる。炭鉄港においても参考になる事例である。

### 3. 視察の感想

今回は株式会社津興様の特段のご配慮をいただき、朝9時から夕方6時までの9時間にわたり、世界文化遺産登録にも多大なご尽力をされた尚古集成館松尾千歳館長より直々にレクチャーしていただくことができました。おかげさまで今回、日本遺産認定に向け申請中の「炭鉄港」と「明治日本の産業革命遺産 ～製鉄・製鋼、造船、石炭産業～」との深い関わりを知識として得ることができ、今後の日本遺産認定後の岩見沢市への反映へのイメージなど、大変大きな成果がありました。

### 2月21日(水) 大牟田市

- 視察項目：世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」となった三池炭鉱ですが、その見学にむけたボランティアガイドのあり方等について
- 視察受入対応者：  
大牟田市観光協会 ボランティアガイド 上村敏雄 様

## 1. 大牟田市の概要

- 総人口：115,152 人 （平成 31 年 2 月末日現在）
- 世帯数： 56,843 世帯 （ // ）
- 面積：81.45 km<sup>2</sup>

大牟田市は、明治時代以降、三池炭鉱と石炭化学コンビナートの隆盛とともに急速な発展をとげ、わが国の産業・経済の発展に大きく貢献したまちです。

炭鉱は平成 9 年に閉山しましたが、平成 27 年 7 月、日本の近代化を支えた三池炭鉱宮原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡、三池港は、世界的にその価値が認められ、明治日本の産業革命遺産として世界文化遺産に登録されました。

大牟田は石炭産業から発展した高い技術力と交通アクセスのよさから多くの企業に注目されています。また市制 80 周年（平成 9 年）の年を大牟田市の「まちづくり実行元年」と位置付け、九州・山口の主要都市に約 3 時間で行けるといいう地理的特性をいかし、「やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた」づくりを市民の皆さんとともに取り組んでいます。（大牟田市 web サイトより）

## 2. 調査項目について

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」に認定された三池炭鉱では、福岡県大牟田市に「宮原坑」「三池港」があり、熊本県荒尾市に「万田坑」、両市にまたがる「三池炭鉱専用鉄道敷跡」が構成資産になっている。この 4 箇所は公共交通で移動するには便が良くなく、レンタカーかタクシーでなければならない状況は、今後、「炭鉄港」が日本遺産に認定された際も想定されることである。そのため、全体を道中からタクシーやレンタカーに同乗して案内することができるスルーガイドの存在について調査した。今回のガイドは以下の様に展開された。

### 【申込みからガイド終了までの流れ】

#### ①申し込みについて

大牟田市観光協会へ FAX にて所定事項を記載の上、申し込みを行った。大牟田市の場合は申し込み受理後、担当となるガイドより直接連絡があり、待ち合わせ場所や行程についての打合せを行っていただけた。

#### ②事前打合せについて

待ち合わせの時間と終了時間を伝え、視察の目的や調査したいことを伝えた後、先方より視察行程の提案をいただいた。おかげで、大正期以降につくられたがゆえに「明治日本の産業革命遺産」に含まれなかった、三池炭鉱関連施設の見学も提案していただき、より密度の高い見学を行うことができた。



### ③待ち合わせについて

今回はスムーズな視察を行うためにレンタカーを手配した。大牟田駅前のレンタカー屋にて待ち合わせ後、ガイド上村氏の誘導で関連施設郡を視察することができた。

### ④世界遺産は4ヶ所あり、そのうち、宮原坑と万田坑は現地に常駐するガイドがいる。その方々の多くは実際に三池炭鉱に勤務していた方々が多く、より現場に特化した話を聴くことができるが、全体的視点には弱く、その状況を勘案すると全体を俯瞰してガイドできる、今回の上村氏のようなスルーガイドの存在が重要と感じた。

### ⑤今回、離脱する際には福岡空港へ向かう高速道路ICの方向を考慮して降車場所が設定されているなど、非常に心遣いをしていただいた。

### ⑥今回のガイド料は、交通費として一律1,000円のみ



### 【ガイドに関して】

- ・大牟田市観光協会では大牟田観光ボランティアガイドを養成している。
- ・観光協会が実施する養成講座を受講した修了生のみで構成される。
- ・他市と同様に若い人は集まらない。
- ・内容が難しいこともあり、ガイドによって内容にばらつきがあるのは否めない。
- ・三池炭鉱が大牟田市と荒尾市に跨っているため、両市でシステムが異なる。
- ・荒尾市では万田坑のみのガイド。大牟田では宮原坑のみ、石炭産業科学館のみのガイドもいるが、今回の様に全体を案内できるのは重要なこと。

## 3. 視察の感想

炭鉄港が日本遺産認定となった場合、小樽、室蘭は単体で見学することが多いと想像されるが、空知に関しては点在するポイントを移動しながら見ていくことになるはず。そうなった場合、やはり大牟田の様なスルーガイドの養成が不可欠と感じた。また、それについては、岩見沢を拠点とすることがより利便性を高めることができ、まさしく岩見沢が鉄道の要衝として栄えてきた「地の利」が復権するものと考え。是非、それを活かしたシステムづくりに反映できればと思います。

## ■視察報告 兼 日本遺産応援セミナーの開催について

今回の視察で学んできた事を元に、岩見沢市民に還元すべく平成31年3月25日（月）に視察報告会を兼ねたセミナーで講演をしました。

（右下画像：告知チラシ）

【岩見沢シビックプライドDAY番外編 目指せ日本遺産 応援セミナー】

たんてつこう  
**炭鉄港と岩見沢**

～「炭鉄港」と世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」との繋がり～

（開催趣旨）  
現在、日本遺産申請中（本年5月頃に可否見込み）の「炭鉄港」は、北海道開拓から現在までの私達の歩みを再認識させてくれるもの。このルーツは黒木の隠學舎（鹿兒島）から。それらの繋がりを含め、そもそも「炭鉄港」とは何か？私達の地域に与える影響は？など「炭鉄港」を全く知らない人でも楽しめる。岩見沢に誇りが持てるお話ししたいと思います。是非一緒に日本遺産認定に向けて頑張りましょう。

入場無料  
先着70名様

■ 開催日時：平成31年3月25日(月)  
18時30分より

■ 会場：岩見沢生涯学習センターいわなび

主催：岩見沢シビックプライドDAY実行委員会  
共催：NPO法人 炭鉄の記憶推進事業団  
お問い合わせ先：中谷 090-8638-7928

また、当日のセミナーの様子を youtube にあげておりますので、どなたでもご覧いただくことが可能です。前段で政務活動費による視察の旨を発言しています。



URL : [https://youtu.be/dtaAiQi99\\_0](https://youtu.be/dtaAiQi99_0)